

北九州ミュージアムパーク創造事業地域計画

—東田エリアを中核とする「文化×産業×観光」—

【目次】

1. 実施体制	P 3
2. 事務の実施体制	P 3
3. 計画区域	P 5
4. 基本的な方針	
4-1. 現状分析	
4-1-1. 主要な文化資源	P 5
4-1-2. 観光客の動向	P 7
4-1-3. 他の地域との比較	P 8
4-2. 課題	P 9
4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため 取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	P 11
4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	P 12
5. 目標	P 14
6. 目標の達成状況の評価	P 19
7. 中核とする文化観光拠点施設	P 20
8. 地域文化観光推進事業	
8-1. 事業の内容	
8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業	P 27
8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の 地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業	P 34
8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、 販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との 連携の促進に関する事業	P 37
8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業	P 39
8-1-5. 1. ～4. の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	P 39
8-3. 必要な資金の額及び調達方法	P 41
9. 計画期間	P 47

北九州ミュージアムパーク創造事業地域計画

－東田エリアを中核とする「文化×産業×観光」－

1. 実施体制

協議会	名称	東田ミュージアムパーク実行委員会		
申請者① 協議会の構成員 である市町村又 は都道府県	名称	北九州市	所在地	福岡県北九州市 小倉北区城内 1－1
	代表者	北九州市長 北橋 健治		
申請者② 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	施設の 名称	①北九州市立自然史・歴史博物館 ②北九州市立新科学館（仮称）	施設 所在地	福岡県北九州市八幡東区東田 ①2－4－1、②今後決定
	設置者 の名称	北九州市	設置者 所在地	福岡県北九州市 小倉北区城内 1－1
	代表者	北九州市長 北橋 健治		
申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 日本旅行業協会九州支部	所在地	福岡県北九州市 小倉北区堺町 1－1－1
	代表者	北九州地区委員長 市瀬 一馬		
申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	公益財団法人 北九州観光コンベンション協会	所在地	福岡県北九州市 小倉北区浅野 3－8－1
	代表者	理事長 利島 康司		
申請者⑤ 文化観光推進 事業者	名称	東田ミュージアムパーク 実行委員会	所在地	福岡県北九州市 八幡東区東田 2－4－1
	代表者	委員長 久保山 雅彦		

2. 事務の実施体制

全体の調整、進捗管理は「東田ミュージアムパーク実行委員会（以下「実行委員会）」が行います。
将来的には、構成施設や地元関係者等の連携により持続的に取組みを進める体制の構築を目指します。

【東田ミュージアムパーク実行委員会】

- ・ 構成員：21名（申請者①～⑤の関係者及び地元住民、学識経験者、商工関係団体など）
- ・ 事務局：北九州市（自然史・歴史博物館、市民文化スポーツ局文化企画課、産業経済局観光課）

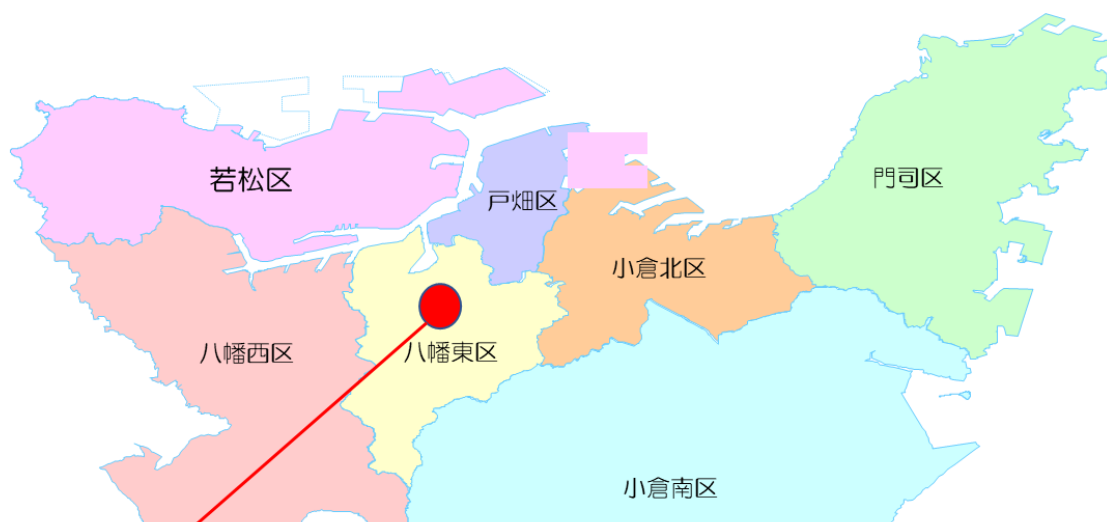
※実行委員会にて嘱託職員（2名）を雇用し、専属で事務処理を実施。

- （1）計画全体の進捗管理：北九州市（同上）
- （2）事業の実施・進捗管理：各事業実施主体
- （3）データ収集：北九州市（市民文化スポーツ局文化企画課、産業経済局観光課）

3. 計画区域

■計画区域：福岡県北九州市

■重点取り組み地区（コアエリア）：八幡東区東田地区



■文化観光拠点施設が集積する八幡東区東田地区（コアエリア）

- ・中核施設① 北九州市立自然史・歴史博物館
- ・中核施設② 北九州市立新科学館（名称未定。2022開業予定）

4. 基本的な方針

4-1. 現状分析

4-1-1. 主要な文化資源

北九州市には、西日本最大級の総合博物館である「いのちのたび博物館」をはじめとする様々なテーマの文化施設のほか、北九州を代表する民間企業による企業ミュージアム（産業観光コンテンツ）が市内各地に存在します。

特に、本計画のコアエリア（詳細後述）となる東田地区には、中核となる博物館、新科学館に加え、環境・産業技術をテーマとするミュージアムや世界遺産（八幡製鐵所関連施設）、市の指定文化財（東田第一高炉跡）などが位置しています。

No.	施設名	テーマなど	備考
①	中核北九州市立自然史・歴史博物館 (いのちのたび博物館)	自然史、歴史	西日本最大級の総合博物館。
②	中核北九州市立児童文化科学館 ※新科学館として移転・拡充予定（2022年）	科学、宇宙	国内最大級のプラネタリウム、最先端の科学技術体験を提供。
③	北九州市環境ミュージアム	環境	身近な問題から地球環境まで、総合的な環境学習を提供。公害克服の歴史も紹介。
④	北九州イノベーションギャラリー ※新科学館へ統合予定（2022年）	産業技術	イノベーションをテーマとする国内唯一の施設。ものづくりの魅力を紹介。
⑤	官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース	産業遺産	世界文化遺産を眺望できるスペース。
⑥	東田第一高炉跡	産業遺産	1901年創業の旧官営八幡製鐵所の第一高炉を復元。市指定史跡。
⑦	関門海峡ミュージアム	関門海峡	関門の歴史と現在を学べる体験型博物館。
⑧	九州鉄道記念館	鉄道	鉄道の歴史に関する展示や運転体験。建物（旧九州鉄道本社）は国登録有形文化財。
⑨	TOTOミュージアム 企業M 【設置】TOTO（株）	水まわり	水まわりの文化や歴史を展示。企業のものづくりへの情熱や製品の進化を紹介。
⑩	ゼンリンミュージアム 企業M 【設置】（株）ゼンリン	地図	歴史を映し出す地図の博物館。
⑪	現代美術センターCCA北九州	現代美術	国内初の現代美術専門の公的な研究・学習機関。
⑫	わかちく史料館 企業M 【設置】若築建設（株）	石炭産業	石炭の積出港として栄えた洞海湾・若松の歴史を紹介。
⑬	安川電機みらい館 企業M 【設置】（株）安川電機	最先端技術	最新のロボット技術など、ものづくりの魅力を発信する展示・体感・学習施設。
⑭	北九州市立美術館	美術	建物は、ポストモダン建築の磯崎新氏の初期代表作。
⑮	ニッスイパイオニア館 企業M 【設置】日本水産（株）	水産資源	企業の歴史や水産資源を取り巻く環境の過去・現在・未来を紹介。

※企業M：企業ミュージアム



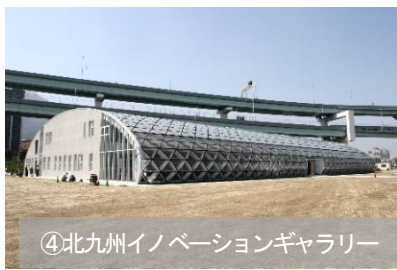
①いのちのたび博物館



②新科学館（2022年予定）



③環境ミュージアム



④北九州イノベーションギャラリー



⑤官営八幡製鐵所日本事務所眺望スペース
写真提供：日本製鉄（株）九州製鐵所



⑥東田第一高炉跡



⑦関門海峡ミュージアム



⑧九州鉄道記念館



⑨TOTOミュージアム



⑩ゼンリンミュージアム



⑪現代美術センターCCA北九州



⑫わかちく史料館



⑬安川電機みらい館

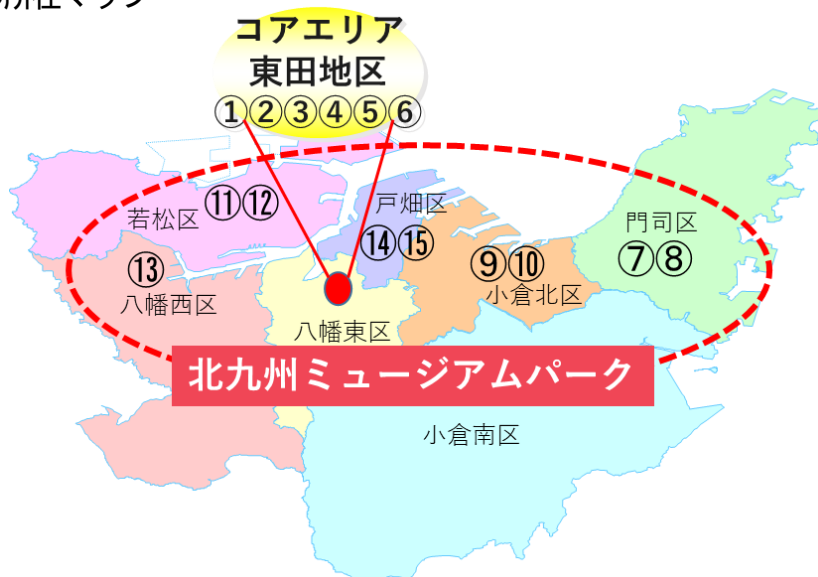


⑭美術館



⑮ニッセイパイオニア館

■主要な文化資源の所在マップ



4-1-2. 観光客の動向

北九州市への観光客数は、約2,500万人程度で推移していますが、スペースワールドの閉園等により、2018年には大きく減少しています。一方で、外国人観光客数については、2019年は主に国際情勢の悪化等により減少していますが、過去5年間では総じて増加傾向にあります。その多くは韓国・中国などの東アジアからのもので、北九州空港への国際航空定期便の就航や、官民一体となったセールス活動の成果等が主な要因と考えられています。

また、北九州市では長年「産業観光」に取り組んでいます。市に加え、実行委員会の構成員である北九州商工会議所、北九州観光コンベンション協会の3者合同で「北九州産業観光センター」を設置し、ワンストップでの情報発信等に努めています。協力事業所数は59ヶ所（2019年）、見学者は50万人台で推移しており、2015年には官営八幡製鐵所関連施設が世界文化遺産に登録されたほか、安川電機みらい館、TOTOミュージアムがオープンするなど、新たな魅力が加わりました。この取組みは、2018年に「第10回観光庁長官表彰（産業観光センター）」を受賞しています。

■北九州市への観光客数等の推移

(万人)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
観光客数（延べ数）	2571.4	2543.3	2532.4	2319.4	調査中
宿泊者数	170.0	177.5	186.2	190.7	調査中
東田地区の観光客数	242.2	247.5	254.3	72.7	調査中
外国人観光客数	25.2	34.9	68.2	69.1	55.6
韓国	8.9	13.4	33.1	34.3	20.9
台湾	8.2	12.0	16.8	17.0	19.9
中国	3.8	4.7	13.4	11.4	7.7
香港	0.9	1.4	1.0	2.1	1.7
その他	3.4	3.4	3.9	4.3	5.4
産業観光の見学者数	55.9	57.4	57.7	57.4	調査中
MICE誘致件数	86	105	134	133	調査中

【出典】北九州市観光動態調査、JNTO 国際会議統計

【ポイント】

①観光客数

観光客の構成は、宿泊18.5%、日帰り81.5%（2018年）となっており、宿泊者数の割合が低い傾向にあります。また、スペースワールドの閉園により、2018年は大きく減少しています（特に東田地区）。

②外国人観光客数

国籍・地域別では韓国が最も多く、次いで台湾、中国、香港の順となっています。2019年は、主に国際情勢の悪化等を理由に減少傾向にあります。北九州空港からの直行便が就航した台湾などは、観光客が増加しています。

③産業観光の見学者数・MICE誘致件数

産業観光の見学者は50万人台で堅調に推移していますが、観光客数に占める割合は1割未満です。MICE誘致件数は増加傾向にあり、エクスカッションでの利用など、文化観光のニーズとして今後の伸びが期待できます。

4-1-3. 他の地域との比較

北九州市と同じく、九州の政令指定都市である福岡市と熊本市を比較対象とし、観光客の動向等について分析します（北九州市観光動態調査、福岡市観光統計、熊本市観光統計を参考としています）。

【現状分析】

（１）観光客の動向（２０１８年）

宿泊率は、熊本市、福岡市、北九州市の順となっています。熊本市では、宿泊での観光客が半数以上を占めていますが、これは、市内の観光地に加え、温泉や雄大な自然など近隣にも豊富な観光資源があることもあり、滞在型の観光需要が生じていると考えられます。福岡市においても、ここ数年は観光客数、宿泊率ともに上昇傾向にあります。

北九州市でも、近年は宿泊率が微増していますが、相対的には依然低い水準となっています。

（万人）

	①宿泊	②日帰り	③合計	宿泊率（①/③）
北九州市	190.7	839.8	1030.5	18.5%
福岡市	826	1,315	2,141	38.6%
熊本市	281.3	214.1	495.4	56.8%

（２）外国人観光客数の推移

外国人観光客数は、３都市とも増加傾向にあります。2019年には、日本でラグビーワールドカップが開催され、試合会場となった熊本市では過去最高となっています。

一方で、北九州市、福岡市では、東アジア（韓国、中国、台湾など）からの来訪者が外国人観光客の半数以上を占めていることもあり、2019年には、国際情勢の悪化等により韓国からの観光客が大幅に減ったことに伴って総数も減少しています。

（万人）

	2017年	2018年	2019年	増減（2017比）
北九州市	68.2	69.1	55.6	▲18.4%
福岡市	298.3	309.4	269.5	▲9.6%
熊本市	65.6	61.8	71.1	8.4%

※福岡市については、外国人入国者数

（３）観光消費額の推移

福岡市、熊本市については、観光消費額は堅調に推移しており、右肩上がりとなっています。熊本市では、2018年には熊本城の入園者数の減などにより観光客数は減少したものの、宿泊客数が増加したことで、消費額は前年を上回る状況となりました。

北九州市でも、観光消費額は観光客数に伴って増加傾向にありましたが、スペースワールドの閉園等により観光客数が減少した2018年には、あわせて減となっています。

（億円）

	2016年	2017年	2018年	増減（2016比）
北九州市	1418.7	1,434.0	1306.8	▲7.9%
福岡市	4,534	4,983	5,020	10.7%
熊本市	621	725	735	18.4%

【考 察】

以上を踏まえると、観光を通じた経済活性化には、観光客数だけではなく、滞在先での消費活動に大きく影響する宿泊需要に目を向ける必要があると言えます。北九州市では、観光客の8割以上を日帰りが占めており、今後、宿泊客の取り込みにつながる施策を強化することが求められます。

また、アジアに近い立地もあって、外国人観光客の約9割が東アジア圏からの来訪者となっています。これは北九州市の強みであると同時に、インバウンド需要が同地域の情勢に大きく影響されることを意味します。このため、将来的により広域からの集客を視野に入れることも必要です。

4-2. 課題

【北九州市をとりまく環境の変化】

(1) 「SDGs 未来都市」への選定

北九州市では、東田地区を舞台とし、スマートコミュニティ創造事業や水素社会実験など、世界最先端技術の実証事業に数多く取り組んできました。こうした取り組みが評価され、2018年4月、北九州市はOECDより「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」に選定され、その後、国より「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」に選定されました。

(2) 「東アジア文化都市 2020 北九州」の開催

2020年から2021年12月にかけて、北九州市では「東アジア文化都市」が開催されます。この事業は、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、様々な文化芸術イベント等を実施することにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図るものです。

特に東田地区では、メイン事業として、未来を創造する芸術祭「ART for SDGs」を開催します。南條史生氏をディレクターに迎え、SDGsをテーマに、アートを通じて来るべき未来のビジョンを世界に発信します（2021年春開催）。

(3) 新たな観光拠点となる大規模商業施設のオープン（予定）

2017年末に閉園したスペースワールドの跡地に、イオンモール(株)による西日本最大級の商業施設の開業が予定されています（2022年春 開業予定）。本格アウトレットとエンターテインメントをかけあわせ、市の新たな観光拠点となる施設が誕生します。

この新たな集客コンテンツと既存の商業施設、ミュージアム群等が効果的に連携することにより、東田地区は国内外からの集客ポンプとなることが期待されます。

(4) 東田地区の歴史と未来

官営八幡製鉄所創業の地として、日本の近代産業を支えた東田地区は、農村～工業都市～環境都市～創造都市という北九州市のあゆみを象徴するエリアです。

また、現在、東田地区の将来像を示す「まちづくり構想」の策定が進められており、文化施設や商業施設、公園等の公共空間、実証フィールドとしての実績など、地区の特性を踏まえつつ、今後のまちづくりの方向性等について議論されています。さらに、東田地区を念頭に国が公募する「スーパーシティ構想」への提案に向けた具体的な検討も始まっています。

このように、東田地区には、市の歴史と未来を体験できる場所としての役割が求められます。



【現状整理】

北九州市のこれまでの歴史、市政への取組み、観光振興の取組み、市場動向、今後の可能性、外的要因等について SWOT 分析を用いて整理することにより、課題について考察します。

強み (Strength) =S	・SDGs 未来都市への選定と創造都市への挑戦 ・文化観光施設（公営・民営）が多い ・長年にわたる産業観光の取組み ・最先端技術を有する企業が多く存在する ・「東アジア文化都市 2020 北九州」による東アジアからの人流の増
弱み (Weakness) =W	・スペースワールドの閉園により観光客数が減少 ・観光客の宿泊率が低い ・文化関連施設での情報発信は改善の余地あり（IT 活用など） ・文化関連施設のネットワーク化が進んでいない ・SDGs 未来都市の「見える化」のインパクトが弱い
機会 (Opportunities) =O	・従来型の観光から、テーマ性をもった観光に需要がシフト ・市場構造が変化し、マイクロツーリズムへの取組みが期待 ・台湾との直行便の就航による新規需要への期待 ・スーパーシティへの挑戦（東田地区） ・市の新たな観光拠点となる商業施設の開業（東田地区）
脅威 (Threat) =T	・新型コロナウイルス感染症の影響 (観光需要の変化、国内及びインバウンドの回復の遅れ、 個人旅行需要の減退)

【課 題】

SWOT 分析をもとにした課題は次のとおりです。

課 題① 【積極的戦略】 機会 (O) × 強み (S)	・ 文化施設群が連携したテーマ性の強い文化観光の取組みを強化 ・ 産業観光を文化観光の視点で深掘り ・ 産業の最先端を担う企業との連携の強化
課 題② 【致命傷回避】 脅威 (T) × 弱み (W)	・ 従来の市場だけに頼らない新しい市場の開拓 ・ 足元の需要を考慮したマイクロツーリズムへの取組み
課 題③ 【改善戦略】 機会 (O) × 弱み (W)	・ IT の活用（来訪者への情報提供、施設の情報発信の改善） ・ SDGs 未来都市の見える化への取組み強化 ・ スペースワールド跡地を活用した新しい文化観光資源の創出 ・ 宿泊につながる観光コンテンツの創出 ・ 新しい市場（インバウンドなど）への取組み強化
課 題④ 【差別化戦略】 脅威 (T) × 強み (S)	・ 知的好奇心層へのアプローチの強化 ・ 「新しい生活様式」に対応した魅力的なコンテンツの創出

4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

【基本的な方向性】

市の文化施設や企業ミュージアムなど、市内全域に広がる文化観光資源を効果的に連携させ、文化をベースに産業観光の視点を加えることで、生命や人のあゆみ、産業の「歴史」と最先端技術などの「未来」に関する学びや体験を提供します。「文化×産業×観光」をコンセプトとした文化観光の推進により、新たな消費を呼び込みます。

【ターゲットの設定】

主なターゲットとする旅行者像には、いのちのたび博物館や新科学館などでの「学び」に関心の高い「Educated Traveler＝知的好奇心旺盛な旅行者」を設定します。また、インバウンドについては、以下の順でアプローチを試みます。

対象地域	考え方
東アジア	既に一定数の観光客が北九州市を訪れている地域
東南アジア	水道や環境分野での技術協力やフィルム・コミッションの活動による交流など、現地での北九州市の認知度が一定程度あり、教育旅行の呼び込みが期待できる地域
欧米・豪	今後、Educated Traveler の掘り起こしを行う地域

産業観光施設への来訪者が、あわせて博物館や科学館を訪れることで、本市の産業の背景にある歴史やストーリーについて、楽しみながら「学び」を深めることができます。

【重点取組み地区（コアエリア）の設定】

東田地区は、日本の近代産業を支えた歴史を持ち、公害問題・克服の舞台となり、先端技術の実証実験が行われるなど、北九州市のあゆみを象徴する地区です。この地区では、2021 年に東アジア文化都市のメイン事業「ART for SDGs」が開催され、2022 年には新科学館や新たな観光拠点施設がオープンするなど、大きな転機を迎えます。

本計画では、この地区に立地する、いのちのたび博物館と新科学館の2つを中核施設に位置付け、先端技術を最大限に活用した展示や、スマートモビリティによる周遊ツールの実証などにより近未来を肌で感じることができるエリアとなるよう取組みを重点的に進めます。

【将来像】

歴史と未来のものづくりクロスロード

～知る・感じる・創造する 過去から未来へ文化が息づくまち～

多様な文化が交差する東田地区を訪れることで、国内外からの来訪者が、過去から学び、知識を深め、感性が磨かれ、より豊かな人生を過ごすチャンスを得ることができます。

来訪者は歴史を学び、テクノロジー（最先端技術）で文化芸術を体感し、未来に思いを馳せることができる人々の「クロスロード」。そのようなまちを目指します。

【取組みを強化すべき事項】

4-2 を踏まえ、取組みを強化すべき事項として次の3つを設定します。

■取組強化事項1 中核館をはじめとする文化施設（資源）の磨き上げ（課題②③④関連）

新科学館の整備やいのちのたび博物館の展示空間の拡充など、文化資源の魅力向上に取り組めます。「歴史と未来を体験できる場所」を目指し、AR・VR、デジタルアートなど先端技術の積極的な活用を図ります。

また、施設の連携による企画展やイベント開催のほか、博物館×デジタルアートなど、異分野のコラボレーション等を進め、連携効果による新たな魅力を創出します。

■取組強化事項2 施設の連携等による文化観光コンテンツの充実（課題①②③④関連）

市内の産業観光施設や夜景スポット等を組み合わせた周遊ツアー、ナイトタイムエコノミーを推進するプログラムの開発など、宿泊（＝地域での消費活動）につながるコンテンツを充実させ、観光消費額の増を目指します。また、スマートモビリティの実証運行やシャトルバスの運行など、回遊性・周遊性の向上を図ります。

■取組強化事項3 インバウンド対策の強化（課題②③関連）

インバウンドの取り込みに向け、施設の多言語化やキャッシュレス対応のほか、日本の文化や施設の魅力等についてネイティブ目線で丁寧に伝える取組みを実施します。来訪者の視点に立ったきめ細かな対応により、外国人観光客が楽しく学べる環境を整備します。

4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

北九州市には、東田地区を中心に様々な分野のテーマを持った文化施設が存在します。このような特徴を踏まえると、海外における先進事例として参考になるのがアメリカを代表する「スミソニアン博物館」です。

スミソニアン博物館は、美術、芸術産業、航空宇宙博物館、歴史博物館、自然史博物館など、19の施設の集合体を指します。来館者数は、自然史博物館だけでも年間700万人を超え、その規模は北九州市とは大きく異なりますが、以下の点において参考とすべき先進事例です。

①集合体としての魅力の発信

スミソニアン博物館の運営手法は、個々の施設の規模に依存せず、集合体としての魅力を最大化して訴求している点にあります。幅広い分野の文化施設群をひとつの集合体として位置づけるスタイルは、本計画が目指す「ミュージアムパーク」の考え方に通じるものがあります。

②文化施設で集客し、地域での消費につなげる

スミソニアン博物館の運営資金は政府の財源及び寄付、寄贈、ミュージアムショップ、出版物の利益で賄われており、入場料は無料です。このことは、博物館群への来場者を増加させる一因であり、来場者の増加は、地域の飲食・購買・宿泊等の観光産業における消費額を向上させています。

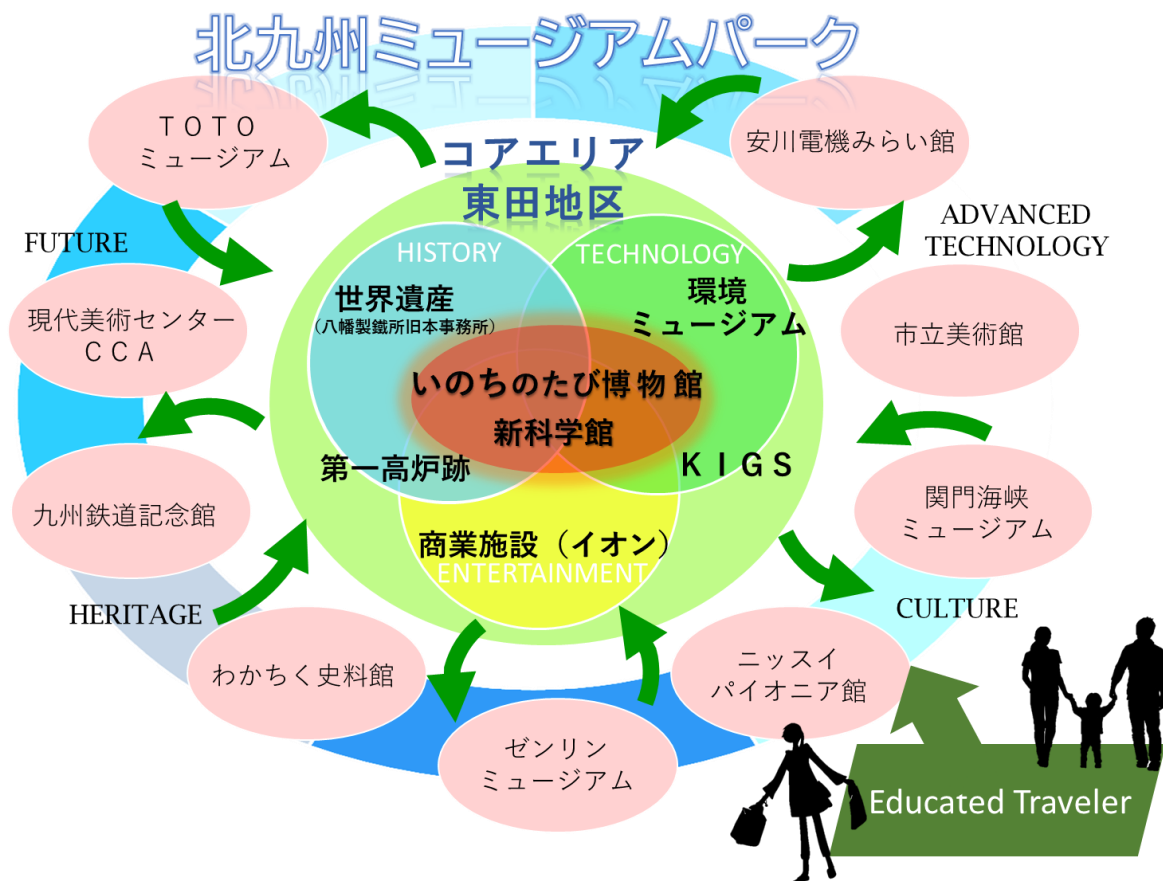
本計画においても、構成施設への入場料収入だけではなく、来館者が回遊できる仕組みを構築することで、地域における消費行動につなげます。

③計画的な広報活動

スミソニアン博物館では、「スミソニアン・イヤーズ」という年報を出版しています。これは、博物館群が発信する情報を集約し、より付加価値が高い情報として発信している成功事例と言えます。

本計画では、従来通り個々の博物館や文化施設による情報発信だけでなく、ミュージアムパークとして一体的な情報発信を検討し、オンラインの活用等による国内外への情報発信に取り組みます。

スミソニアン博物館を参考とし、構成施設の連携によって集合体（ミュージアムパーク）としての魅力を高め、効果的な情報発信により国内外からの集客を図り、訪れた観光客が楽しく回遊できる仕組みを構築します。観光客による消費活動を喚起することにより地域の活性化を図り、文化資源のさらなる魅力向上など、文化の振興につなげます。



5. 目標

目標①：来訪者数（観光客数）（課題①②③④関連、取組強化事項 1、2、3 関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

コアエリアである東田地区において、文化施設を新たな集客コンテンツとし、かつての地区の集客力を取り戻す意味で、200 万人（現在の約 3 倍）を設定しました。各年度については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う一時的な減少（2020、2021 年）や、新たに開業する新科学館、大規模商業施設を含む連携事業等による集客力の向上（2022～2024 年）を踏まえて目標設定しています。市全体の観光客数についても、あわせて推移を観察します（目標値は 2021 年度中に設定する予定）。いずれも北九州市観光動態調査によって把握します。

年度	実績		目標				
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
目標値（東田地区） （単位：万人）	72.7	調査中	36	72	90	150	200
目標値（市全体） （単位：万人）	2,319.4	調査中	2,460	2021 年度中に目標値を設定する予定			
事業 1－②： 新科学館整備事業			実施設計及び工事	工事	新科学館の開業	—	—
事業 1－③： 複数の構成施設等による連携企画展やイベント事業			連携企画展準備（中核施設×商店街）、C C A との連携市民講座開催	連携企画展開催（中核施設×商店街）	連携企画展開催	連携企画展開催	連携企画展開催
事業 1－④： 体験型イベント事業			—	—	—	体験型イベントの実施	体験型イベントの実施

年度	実績		目標				
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
事業１－⑥： 収蔵史料等（コレクション）のデジタルアーカイブ化事業			収蔵品のデジタルアーカイブ化、公開	収蔵品のデジタルアーカイブ化、公開	収蔵品のデジタルアーカイブ化、公開	収蔵品のデジタルアーカイブ化、公開	収蔵品のデジタルアーカイブ化、公開
事業２－①： 地域における回遊促進を図るスマートモビリティの実証運行事業			スマートモビリティ導入検討	スマートモビリティの実証運行	スマートモビリティの実証運行	スマートモビリティの実証運行	スマートモビリティの実証運行
事業３－①： 「ミュージアムパーク＋１（プラスワン）」事業			回遊促進の仕組み検討	民間施設との協議による観光コースの検討	連携による観光コース作成・ＰＲシャトルバスの運行	連携による観光コース作成・ＰＲシャトルバスの運行	連携による観光コース作成・ＰＲシャトルバスの運行
事業３－③： 国内向けガイドツアー事業			ガイドツアー内容の検討	モニターツアーの実施	ガイドツアーの実施	ガイドツアーの実施	ガイドツアーの実施
事業４－①： ミュージアムパーク情報発信事業			ホームページ運用	ホームページ運用	ホームページ運用、新規手法の検討	ホームページ運用、新規手法による発信	ホームページ運用、新規手法による発信

目標②：来訪者数（観光客数）【外国人】（課題①②③④関連、取組強化事項 1、2、3 関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） コアエリアである東田地区において文化施設のインバウンドへの訴求力を図る指標として、国の方針（10 年間で 2 倍）を踏まえ、2030 年に約 14,000 人を 目指し、5 年間で 1.5 倍となる目標値としました。各年度については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う一時的な減少（2020、2021 年）や、新たに 開業する新科学館、大規模商業施設を含む連携事業等による集客力の向上（2022～2024 年）を踏まえて目標設定しています。市全体の数値についても、あ わせて推移を観察します（目標値は 2021 年度中に設定する予定）。文化施設等の外国人来館者数及び北九州市観光動態調査によって把握します。							
年度	実績		目標				
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
目標値（東田地区） （単位：人）	—	7,000	3,500	4,000	7,000	8,750	10,500
目標値（市全体） （単位：万人）	69.1	55.6	70	2021 年度中に目標値を設定する予定			
事業 1－⑤： 産業観光・工場夜景を活 かした新たな観光メニ ュー開発事業			観光メニュー検討	観光メニュー検討 モニターツアー実 施	観光ツアー実施	観光ツアー実施	観光ツアー実施
事業 2－③： 誘導案内表示等の拡充 事業			世界遺産（八幡製鐵 所旧本事務所）眺望 スペースへの誘導 表示の整備	新科学館と連携し た案内表示の整備	誘導表示整備	誘導表示整備	誘導表示整備
事業 2－⑥： 展示情報等の多言語化 事業			環境ミュージアム 解説等の多言語化	地区内施設の多言 語化	多言語化リーフレ ットの更新	地区内施設の多言 語化	地区内施設の多言 語化
事業 3－②： インバウンド向けガイ ド付き周遊ツアー事業			ガイドツアー内容 検討（調査・企画等）	ガイドツアー内容 検討（調査・企画等）	モニターツアー実 施	モニターツアー実 施	ガイドツアー実施

年度	実績		目標				
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
事業３－④： 宿泊施設や交通事業者 と連携した集客促進事 業			—	—	宿泊施設や交通事 業者との連携によ るサービスの検討	宿泊施設や交通事 業者との連携によ るサービスの実施	宿泊施設や交通事 業者との連携によ るサービスの実施

目標③：来訪者の満足度（課題①②③④関連、取組強化事項１、２、３関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

九州国立博物館における来館者アンケートの満足度の達成目標（８０％）を参考に、一般的に大多数の方に満足していただいたと考えられる数値として設定しました。施設来場者等へのアンケート調査を行い、５段階評価のうち、「大変満足」および「満足」と答えた方の割合によって把握します。

年度	実績		目標				
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
目標値 (単位：％)	—	—	—	65	70	75	80
事業１－①： 「いのちのたび博物館」 の展示空間の拡充事業			改修内容検討、 先端技術の勉強会 実施 デジタルネイチャ ーアート展の準備	展示空間の調査、整 備計画の策定 デジタルネイチャ ーアート展の開催	魅力向上のための 軽改修（５－①設備 にあたらないもの）	魅力向上のための 軽改修（５－①設備 にあたらないもの）	魅力向上のための 軽改修（５－①設備 にあたらないもの）
事業１－⑦： 学芸員の人材育成及び 人材確保事業			学芸員研修会の実 施	学芸員研修会の実 施、学芸員による各 事業補助	学芸員研修会の実 施、学芸員による各 事業補助	学芸員研修会の実 施、学芸員による各 事業補助	学芸員研修会の実 施
事業２－②： 広域に分散する文化観 光施設群間の回遊促進 事業			シャトルバス運行 準備、回遊促進イベ ントの検討	シャトルバスの運 行、 回遊促進イベント の実施	シャトルバスの運 行、 回遊促進イベント の実施	シャトルバスの運 行、 回遊促進イベント の実施	シャトルバスの運 行、 回遊促進イベント の実施

年度	実績		目標				
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
事業２－④： 東田地区インフォメーションセンター構築事業			情報集約センターの手法検討	情報集約センターの手法検討	情報集約センターの構築	情報集約センターの運用	情報集約センターの運用
事業２－⑤： ＩＣＴを活用した利便性向上策の導入事業（キャッシュレス等）			ＩＣＴ活用の手法検討	ＩＣＴの活用手法検討、試行導入	地区内施設順次キャッシュレス化	ＩＣＴ活用による更なる利便性向上のためのサービス検討・試行実施	ＩＣＴ活用による更なる利便性向上のためのサービス検討・試行実施
事業２－⑦： 国内向けボランティアガイドスタッフの育成事業			ガイドスタッフ研修内容の検討	ガイドスタッフへの研修実施	ガイドスタッフへの研修実施	ガイドスタッフへの研修実施	ガイドスタッフへの研修実施
事業５－①： 「いのちのたび博物館」の展示空間の拡充事業（再掲）			—	—	改修工事に伴う実施設計の実施	改修工事の実施	改修工事の実施

6. 目標の達成状況の評価

事業開始から概ね3年間の成果（5の目標の達成状況、観察指標の推移など）を踏まえ、2022年度中に評価を実施します。評価結果については、実行委員会での議論を踏まえ、最終年度（2024年度）の取組みに反映させます。

7. 中核とする文化観光拠点施設

文化観光拠点施設名 北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）

主要な文化資源

「いのちのたび」をコンセプトとし、地球誕生から現代に至る生命の進化の道筋と人の歴史を壮大なスケールで展示した西日本最大級の総合博物館です。歴史・自然史・考古の3博物館を統合し、平成14年に開館しました。

自然史ゾーン

ティラノサウルスやトリケラトプスなど、陸海空の最大級の恐竜や翼竜などの骨格レプリカや、多種多様な現生生物の剥製など約4,500点の資料を展示し、地球の形成生命の誕生から現在に至る生物の変遷や進化、多様性を紹介しています。



ティラノサウルスとトリケラトプス

歴史ゾーン

交通の要所に位置し、工業都市として発展した北九州の歴史について、市内の重留遺跡出土の銅矛（国指定重要文化財）や日本で初めてユネスコ記憶遺産（世界の記憶）の登録を受けた山本作兵衛による最大の炭鉱記録画など、旧石器時代から近現代まで約1,500点の歴史資料によって紹介しています。

館内には、小倉祇園（国指定重要無形民俗文化財）、黒崎祇園（福岡県指定無形民俗文化財）、戸畑祇園（ユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財）の北九州の三大夏祭りの山笠も展示しています。



山笠の展示

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

自然史ゾーン

自然史ゾーンでは、生命の誕生から現在までの進化を恐竜やアンモナイトなどの化石やレプリカ等で展示する「アースモール」、現存の生物の剥製や骨格などを展示している「生命の多様性館」をはじめ、恐竜ロボットなどを活用したウォークスルー型のジオラマ「エンバイラマ館」など観る・体感する展示構成となっています。

エンバイラマ館では、中生代白亜紀の北部九州へのタイムスリップを体験できます。多くの資料に基づき、恐竜たちの体の形ばかりでなく、首の動きや皮膚の色まで細部にわたって丁寧に再現しています。



ジオラマ（エンバイラマ館）

歴史ゾーン

歴史ゾーンでは、弥生時代の竪穴住居や昭和30年代の八幡製鐵所社宅の生活を原寸大で再現し、当時の風俗や暮らしを音響・映像演出で楽しむことができる展示を行っています。



八幡製鐵所社宅の再現

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）
来館者は、館内の無料Wi-Fiを活用し、持参したモバイル端末等で展示解説を見ることができます。また、固定型情報検索装置により、さらに詳しい解説も行っています。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

外国人観光客の多くを占める東アジア圏（中国、韓国等）からの来館者に対応するため、展示物の解説を4ヶ国語（日、英、中、韓）の文字情報及び音声で実施しています。

3ヶ国語（英、中、韓）対応の音声ガイドの無料貸出しも行っており、外国人観光客にもお楽しみいただける施設運営に努めています。



多言語解説（モバイル端末）



館内の情報検索装置（イメージ）

本計画における取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

本計画では、事業番号1ー①「「いのちのたび博物館」の展示空間の拡充事業（新時代の博物館への進化）」により、施設の大規模なリニューアルを計画的に進めます。

最新技術を適切に取り入れた展示の工夫（VRやARの活用などデジタルな取組み）により、物理的な空間に制限されず、未来を感じることができる展示方法を導入します。博物館を訪れた人が、生命の進化や人々の暮らしの変遷、産業の発展など、展示資料の背景にある歴史やストーリーについて、その価値をより楽しく学び理解を深めることができる環境を整備します。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

事業番号1ー①「「いのちのたび博物館」の展示空間の拡充事業（新時代の博物館への進化）」において、VRやARなどの最新技術やデジタルアート手法などを積極的に活用します。（詳細はp.25）

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

情報技術の発展に伴うインフラ整備が遅れていること、入館者動向などのデータの収集と活用が不足していることが挙げられ、これらの改善に取り組みます。

多言語対応については、英・中・韓の3ヶ国語について、AI等を活用した翻訳機能を実装したソフ

トウェアの活用とネイティブチェックを組み合わせ、日本語の直訳ではない「わかりやすい多言語」解説とします。

文化資源の魅力や背景等について、ネイティブによる書下ろしの解説等を導入し、外国人旅行者がより楽しく文化を学ぶことができる環境を整備します。

(原則として、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に従います。)

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

観光課と連携し「名探偵コナン 北九州・光と海の道ミステリーツアー」の立ち寄りスポットとしての事業協力や、国内外からの修学旅行を受け入れるなど、観光資源としての施設の活用・PRにも取り組んでいます。

文化観光の推進については、観光課及び北九州観光コンベンション協会を含む官民の関係者からなる「東田ミュージアムパーク実行委員会」を組織し、事業の実施主体として取組みを推進していきます。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

北九州市産業経済局（観光課）が実施する「北九州市観光動態調査」の提供を受けるとともに、来館者数について定期的に情報提供するなど、双方向での情報交換を行っています。これにより、市内の観光客の動向（市全体及び地区ごとの観光客数、宿泊者数、インバウンド数など）を把握し、施設を取り巻く状況について、他のエリアと比較するなど、客観的に捉えることができています。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

文化観光の推進については、観光課及び北九州観光コンベンション協会を含む官民の関係者からなる「東田ミュージアムパーク実行委員会」を組織し、方針となる地域計画（KPIを含む）の策定等を行います。

本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

上記実行委員会としての取組みを継続するほか、企業ミュージアムなど、産業観光施設との連携を構築し、魅力のさらなる向上を図ります。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

本計画の目標や方針の検討を行う上でも、北九州市産業経済局（観光課）が実施する「北九州市観光動態調査」の提供を受けるとともに、来館者数について定期的に情報提供するなど、双方向での情報交換を行い、分析に活かします。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

上記のデータ収集の協力体制により、適切なKPIの設定や事業の見直し等を行います。

施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

近接している商業施設（イオンモール八幡東）において、企画展の出張展示を行っています。また、環境ミュージアムや北九州イノベーションギャラリーなど地区内の施設を含めた共催イベントや回遊スタンプラリーの実施等、連携の実績があり、今後も強化します。

本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

施設の連携企画展に際し、地元商店街の店舗を活用した展示を実施するほか、2022 年に開業予定の新科学館や商業施設と連携した相互集客にも取り組みます。また、東田地区内の回遊性向上に向けたスマートモビリティの実証実験に、実行委員会として参加します。

文化観光拠点施設名 (仮称) 新科学館 ※2022 年開業予定

主要な文化資源

「科学や技術への興味・関心を高め、北九州市の未来を担う人材を育む、賑わいを創出する科学館」をテーマに、スペースワールド跡地（イオンモール(株)による新施設の敷地内）に 2022 年春に開業する予定です。最新の展示装置やプラネタリウムによって科学に興味・関心を抱くきっかけを提供するとともに、本計画の主要な文化資源である「北九州イノベーションギャラリー」を統合し、北九州市の産業技術の歴史や工房等を使ったものづくり体験を提供します。

■フロア構成と展示構成

1階 北九州市ポータル

「北九州市のまちと科学がつながる、ALL 北九州市でつくるフロア」

人々の暮らしを支える科学技術を、地元企業・大学と連携して紹介します。北九州市のまちのなか、暮らしのなかに応用されている科学技術に触れながら、今を知り、未来を描く場を作ります。



2階 科学の基礎

「不思議を感じて考える、楽しみながら科学的思考を養うフロア」

不思議な科学現象に対する驚きや疑問を入口に、現象の裏にある原理・原則を体感展示を通して紐解いていくことで、科学的思考の基礎である観察力・実験力・考察力を養います。



3階 スペースラウンジ、プラネタリウム

「宇宙と北九州市のつながりを受け継ぎ、宇宙への希望を育むフロア」

スペースワールドの展示・資料や地元企業・大学の技術を最大限に活かしながら、北九州市から「宇宙」へと飛び立つことへの希望を発信します。

また、国内最大級となる直径30mのドームを備えたプラネタリウムを整備します。国内唯一の技術で自然と同じ究極の星空を提供し、全天周デジタル映像と組み合わせることで天文学習効果を向上するほか、内装デザインとシステム機器が調和した機能的な空間演出により、あらゆる利用者に癒しや感動を提供し、賑わいを創出します。



主要な文化資源についての解説・紹介の状況
現状の取組
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号） ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号） ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号） 2022年に開業予定です。
本計画における取組
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号） 事業番号1ー②「新科学館整備事業」のとおり、整備を進めます。 1階フロアでは、「北九州市のまちと科学がつながる、ALL 北九州市で創るフロア」のコンセプトのもと、人々の暮らしを支える科学技術を、地元企業・大学とも連携して紹介します。 また、スペースワールドで展示されていた宇宙関連の資料や「月の石」（国内での展示は本市含め2ヶ所のみ）などを展示するほか、地元企業・大学の技術を最大限に活かした展示を行います。 国内最大級となる直径30mのドームを備えたプラネタリウムでは、国内唯一の技術で自然と同じ究極の星空を提供し、全天周デジタル映像と組み合わせることで天文学習効果を向上するほか、内装デザインとシステム機器が調和した機能的な空間演出を行います。 ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号） 事業番号1ー②「新科学館整備事業」のとおり、整備を進めます。 整備の基本的な方針を示す「北九州市新科学館基本計画」において、科学・技術展示の最新手法の導入について展開することとしています（詳細は今後検討）。 ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号） 事業番号1ー②「新科学館整備事業」のとおり、整備を進めます。 新科学館は、国内外からの観光客をターゲットとしており、多言語による展示解説等を展開することとしています。 対応言語は、英・中（簡体・繁体）・韓の3カ国語の予定です。（詳細は今後検討） （原則として、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に従います。）
施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携
現状の取組
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立 2022年に開業予定です。
本計画における取組
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 上記実行委員会としての取組みを継続するほか、企業ミュージアムなど、産業観光施設との連携を構築し、魅力のさらなる向上を図ります。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 本計画の目標や方針の検討を行う上でも、北九州市産業経済局（観光課）が実施する「北九州市観光動態調査」の提供を受けるとともに、来館者数について定期的に情報提供するなど、双方向での情報交換を行い、分析に活かします。 ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P I の設定・P D C A サイクルの確立 上記のデータ収集の協力体制により、適切なK P I の設定や事業の見直し等を行います。
施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者との連携
現状の取組
・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 2022 年に開業予定です。
本計画における取組
・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 近接のイオンモール八幡東と連携するほか、新科学館は同じく 2022 年に開業予定の新たな商業施設の敷地内に立地予定であり、当該施設と密に連携した集客にも取り組みます。また、東田地区内の回遊性向上に向けたスマートモビリティの実証実験に、実行委員会として参加します。

8. 地域文化観光推進事業

8-1. 事業の内容

8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	「いのちのたび博物館」の展示空間の拡充事業（新時代の博物館への進化）
事業内容	ミュージアムパークの集客力を上げるには、文化資源（施設）の魅力が必要です。中核施設であるいのちのたび博物館では2012年以降、常設展の大規模なリニューアルが行われていません。 そこで、既往展示の磨き上げのみならず、新たな展示空間構築のための調査や実施計画の策定、そして大規模リニューアルの実施を計画的に進めていきます。 魅力溢れる資料の新規展示や、最新の技術やアイデアを駆使した魅せ方の導入など、国内外の新たな博物館ファンの獲得を目指し、「心ときめき記憶に残る体験」が提供できる新時代の博物館へ進化を加速させます。 具体的には、現在の北九州市にしながら、中生代に生息していたスピノサウルス等の陸海空の最大級の生物やダイオウグソクムシ等の深海生物のような過去や海外の珍しく興味深い生物に出会え、それら生物の形・形に秘められた生きるための工夫などを当館でしか体感できない視点や視座で鑑賞できる常設展示に改修します。 歴史展示では、古来日本列島における交通の要所として重要な役割を果たしてきた北九州地域の歴史について、日本史における重要な出来事や人物との関連を重視して紹介します。また、「石炭と鉄がつくった産業都市」として独自の発展を遂げた北九州市の足跡を明示します。さらに祭りや住まい、武士や城などインバウンド来館者の関心の高い主題を中心に、日本文化の特質についてわかりやすく解説します。 そのため、源平合戦や戦国～江戸時代初期、幕末などを中心に、地域のダイナミックな歴史のドラマ性を、弥生時代や近代の農家、昭和戦後の製鐵所社宅などの生活再現展示を中心に体験性・体感性を高める工夫を施します。 超時空間ミュージアム【自然史】 ドラマティックミュージアム【歴史】 時間と空間で表現 最新展示技術活用 動的表現の導入 日本文化の体験 展示空間の進化

【新時代の博物館として（先端技術の活用）】

上記の展示拡充に向けた取組や、ユニークベニューとしての館外展示などの企画において、VR や AR などの最新技術やデジタルアート手法などを積極的に活用します。

たとえば、迫力ある恐竜ロボットを駆使して白亜紀の北九州を体感できるエンバイラマ館（p. 18 参照）を、AR を活用することにより、現在は映像でしか表現し得ていない恐竜や翼竜のリアルな姿や動きを、来館者が持参する携帯端末で楽しんでいただけるように進化させます。

また中世山城の一つである長野城合戦や近世の小倉城・城下町のジオラマなどについて、AR を活用することにより、合戦の具体的な場面や山城の機能、小倉城の構造や城下町の生活などについて、登場人物の一人として参加するようなかたちで、楽しみながら、より動的かつ体感的に学んでいただけるように展示を更新します。

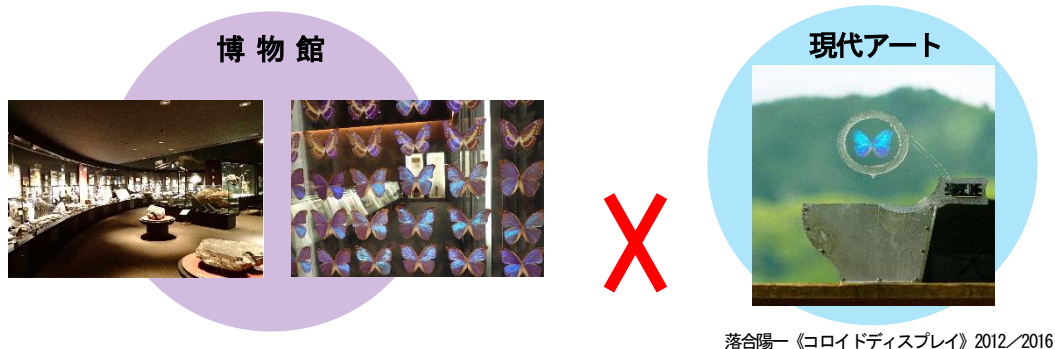
このように、先端技術を活用し、雄大な生命の「歴史」を楽習する、日本でここだけの体験ができる博物館を目指します。

【事業例】 デジタルネイチャーアート展（「博物館」×「現代アート」）

（2020 準備～2021 実施）

2021 年の「ART for SDGs」の開催にあわせ、いのちのたび博物館のコレクションや市内にくらす動植物をモチーフに、デジタル技術を駆使して視覚的効果を高め、ストーリー性を持たせた新しい展示の方法を提案するデジタルネイチャーアート展を開催します。

「博物館×現代アート」の異分野コラボレーションにより、新たな魅力を発出します。



実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	事業期間終了後も継続予定（市の予算）
アウトプット 目標	中核施設の展示リニューアル（計画策定～実施）、企画展の開催
必要資金 調達方法	75.5 百万円（内訳 25.5 百万円（負担金） 50 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

事業名	新科学館整備事業
事業内容	現・児童文化科学館の老朽化を受け、八幡東区東田地区のスペースワールド跡地（イオンモール新施設敷地内）へ移転し、新科学館として整備します。 新科学館では、最新の展示装置やプラネタリウムを導入し、科学に興味・関心を抱ききっかけづくりの場を提供することで、未来を担う人材の確保・育成に寄与します。 また、東田ミュージアムパークの施設の一つとして、近接する博物館群や商業施設と連携し、周遊性の向上や共同企画の開催により地域全体として持続的な賑わいを創出することで、国内外からの集客に寄与し、市域全体の活性化につなげます。 ■<u>テーマ</u> 「科学や技術への興味・関心を高め、北九州市の未来を担う人材を育む、賑わいを創出する科学館」 ■<u>コンセプト</u> 1. 誰もが科学に興味を持つきっかけづくり 最先端のプラネタリウム、科学の面白さを体感できる展示など 2. 技術系人材の育成 北九州市の人材を活用した実験・ワークショップの実施など 3. 北九州市の技術の発信 地元企業や大学等と連携し、「ものづくりのまち」ならではの技術の発信など 4. 周辺施設と連携した賑わいづくり、集客力アップ いのちのたび博物館や北九州イノベーションギャラリーなど周辺施設との連携等 ■<u>基本機能</u> ①展示機能 身近な現象をベースに、科学の原理原則や最先端技術を体験できる展示を配置 ②プラネタリウム機能 国内最大級の直径30mドームで天文学習をはじめ、さまざまなプログラムを開催 ③教育普及機能 科学館でしか体験できない講座や活動を行い、科学への馴染みにつなげる ④企業・大学との連携 最新技術に潜む科学を掘り下げるほか、関係団体と連携し持続的な運営体制を確保



■フロア構成と展示構成

1階 北九州市ポータル

「北九州市のまちと科学がつながる、ALL 北九州市でつくるフロア」

人々の暮らしを支える科学技術を、地元企業・大学と連携して紹介します。
北九州市のまちのなか、暮らしのなかに応用されている科学技術に触れながら、
今を知り、未来を描く場を作ります。



2階 科学の基礎

「不思議を感じて考える、楽しみながら科学的思考を養うフロア」

不思議な科学現象に対する驚きや疑問を入口に、現象の裏にある原理・原則を
体感展示を通して紐解いていくことで、科学的思考の基礎である観察力・実験力・
考察力を養います。



3階 スペースラウンジ、プラネタリウム

「宇宙と北九州市のつながりを受け継ぎ、宇宙への希望を育むフロア」

スペースワールドの展示・資料や地元企業・大学の技術を最大限に活かしながら、
北九州市から「宇宙」へと飛び立つことへの希望を発信します。

また、国内最大級となる直径30mのドームを備えたプラネタリウムを整備し
ます。国内唯一の技術で自然と同じ究極の星空を提供し、全天周デジタル映像と
組み合わせることで天文学習効果を向上するほか、内装デザインとシステム機器
が調和した機能的な空間演出により、あらゆる利用者に癒しや感動を提供し、
賑わいを創出します。



実施主体	北九州市
実施時期	2020 年～2022 年
継続見込	事業期間中に完了の見込み
アウトプット目標	新科学館の開業
必要資金 調達方法	2, 802 百万円（内訳：1, 974 百万円（市費）828 百万円（地方創生拠点整備交付金（内閣府）））

(事業番号 1-③)

事業名	複数の構成施設等による連携企画展やイベント事業
事業内容	ミュージアムパークの文化観光施設が連携し、共通テーマによる企画展やイベントを開催します。 例えば、東田地区では、いのちのたび博物館を中心に、環境ミュージアム、イノベーションギャラリー、世界遺産などを関連づけて外国人にも分かりやすい歴史・文化のストーリーを作成し、ミュージアム群を巡ることで日本の文化や歴史が理解できる仕組みをつくります。 【事業例】 東田連携企画展 × 八幡中央町商店街 (2020 準備～2021 実施) いのちのたび博物館と環境ミュージアムが連携して、北九州市の石炭と鉄を中心とする産業都市としての発展から、公害を克服して環境未来都市へと転換していった軌跡を一貫してたどる企画展「(仮称) 北九州市・産業都市の軌跡」を開催します。 その際、製鉄所のお膝元である八幡中央町商店街の旧鶴屋本店 (1930 年創業の菓子屋) も会場に加え、製鉄のまち八幡の歴史や商店街の変遷などについて、鶴屋関係資料を中心に紹介します。 また、近代製鉄発祥の地である釜石市と連携し、釜石から八幡に至る製鉄技術の発展と製鉄所を中心として育まれた独自の都市文化について考えます。 ミュージアムと世界遺産、地元商店街、他都市と連携し、地域の歴史をわかりやすく、魅力的な形で明示する「北九州ミュージアムパーク」ならではの企画展です。  自然史・歴史博物館 環境ミュージアム 商店街 (旧鶴屋店舗)
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	事業期間終了後も継続予定 (市の予算、事業者予算)
アウトプット 目標	年 1 回以上の企画展の開催 (2020 年は準備のみ)
必要資金 調達方法	40 百万円 (内訳: 14 百万円 (負担金) 26 百万円 (博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金 (文化庁)))

(事業番号 1-④)

事業名	体験型イベント事業
事業内容	文化資源の面白さや魅力を発信し、文化への関心を高めるため、ナイトミュージアムやオープンスペースでのワークショップなど体験型イベントを開催します。 また、「特別な体験」を提供する新たな集客コンテンツとして、いのちのたび博物館で試行実績がある館内でのレセプションや、「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」において取り組んだ歴史的建造物での特別展などの「ユニークベニュー」を実施します。  
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2023 年～2024 年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	体験型イベントの開催（年 1 回以上）
必要資金 調達方法	10 百万円（内訳：3 百万円（負担金） 7 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁）））

(事業番号 1-⑤)

事業名	産業観光・工場夜景を活かした新たな観光メニュー開発事業
事業内容	いのちのたび博物館などの文化施設のほか、TOTOミュージアムや安川電機みらい館などの産業観光施設、沿岸部に広がる様々な夜景スポットなどを巡る魅力的な観光メニューを造成することで、本市への宿泊客増加につなげます。 具体的には、 ・北九州の伝統工芸品である小倉織体験や天然素材を使った石けんづくり体験等、北九州ならではのものづくり体験ツアー ・エンターテインメント性を高めた産業観光ツアー ・インバウンドをメインターゲットとした着地型の産業観光ツアー ・宿泊者を対象としたバスやクルーズ船等を利用した夜景スポット周遊ツアー など、ターゲット層や集客の拡大を図るための有料モニターツアー等を実施し、将来的な民間事業者による自主事業化に向けた検証を行います。

	 
実施主体	北九州市、東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	事業期間終了後も継続予定（民間事業者にて自走）
アウトプット 目標	民間事業者による自主事業ツアーの創出（2 つ以上）
必要資金 調達方法	9 百万円（内訳：3 百万円（負担金） 6 百万円（博物館等を中核とした文化ク ルスター推進事業補助金（文化庁））

（事業番号 1－⑥）

事業名	収蔵史料等（コレクション）のデジタルアーカイブ化事業
事業内容	博物館の収蔵資料や地域の歴史資源について、デジタルアーカイブを構築します。デジタル化した資料はホームページでの公開や連携企画展等でのデジタルデータを活用した展示などにより、ミュージアムの情報発信力を強化・魅力の向上につなげます。将来的には、構築したデジタルアーカイブについて、先端技術を用いた新たな展示に活用します。
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算）
アウトプット 目標	計画的なデジタルアーカイブ化の実施（年間 2,000 点）、公開
必要資金 調達方法	9 百万円（内訳：3 百万円（負担金） 6 百万円（博物館等を中核とした文化ク ルスター推進事業補助金（文化庁））

（事業番号 1－⑦）

事業名	学芸員の人材育成及び人材確保事業
事業内容	施設の魅力向上には、最新の研究成果や新たな資料を常に探求する必要があり、それを担う学芸員のスキルアップや国内外の博物館等とのネットワーク強化が不可欠です。日常的な研究に加え、研修・共同研究への参加を推奨するとともに、代替学芸員を適切に確保するなど、施設の魅力向上と人材育成を両立できる環境を整えます。 また、博物館を舞台とした魅力的な体験講座などのプログラムの作成や実施、指導を担うエデュケーターとしての学芸員を確保し育成します。そして、両中核館をめぐり一貫したテーマに基づいた「心ときめき記憶に残る体験」ができるワークショッププログラムなどを開発します。これによって、国内外からの Educated Traveler や修学旅行生が、東田地区そして北九州市で、より長く魅惑的な時間を過ごしてもらえるようにします。

実施主体	北九州市、東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	期間終了後も継続予定（市の予算）
アウトプット 目標	①研修・共同研究への参加：20 人日/年 ②エデュケーターによるプログラムの開発：1 本/年
必要資金 調達方法	9 百万円（内訳：3 百万円（負担金） 6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業

（事業番号 2－①）

事業名	地域における回遊促進を図るスマートモビリティの実証運行事業
事業内容	東田地区にはミュージアムや世界遺産、大型商業施設が集積しています。また、2022 年春には、新たな観光拠点となる商業施設や科学館のオープンが予定されており、広域からの更なる集客が期待されています。 これまで様々な先端技術の実証の舞台となり、今後はスーパーシティ構想の検討が進む東田地区の特性をふまえ、地区内の周遊を促進する取組みにおいても、先端技術を活用することで、少し先の未来を体感する機会を提供します。 具体的には、東田Ma a S研究会と連携し、周遊バス（グリーンスローモビリティ）やパーソナルモビリティの実証運行を実施します。 また、この実証を踏まえ、実走運行に向けた検討を開始します。 
実施主体	北九州市、東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	実証を踏まえ、本格導入について検討
アウトプット 目標	東田地区内を周遊する電動バス等新たなモビリティによる移動の実証運行の実施
必要資金 調達方法	1 5 百万円（内訳：5 百万円（負担金） 1 0 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

（事業番号 2－②）

事業名	広域に分散する文化観光施設群間の回遊促進事業
事業内容	いのちのたび博物館でのアート展の会期中に、Art for SDGs 開催会場である周辺文化観光施設（美術館）結ぶシャトルバスを運行し、相互集客を促進するほか、期間中のスタンプラリーやグッズ配布等の回遊促進を図るイベントなどを実施します。

実施主体	2020 年～2024 年
実施時期	東田ミュージアムパーク実行委員会
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	シャトルバスの運行、回遊促進イベントの企画・実施
必要資金 調達方法	7 百万円（内訳：3 百万円（負担金） 4 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
(事業番号 2-③)	
事業名	誘導案内表示等の拡充事業
事業内容	地区内の回遊性促進に向けて、誘導案内等を充実させます。2020 年度は博物館等と離れた場所に位置する八幡製鐵所旧本事務所の眺望スペースについて実施します。 また、2022 年のイオンモール(株)による商業施設、新科学館のオープンに合わせ、更なる回遊促進のための案内表示の充実を図ります。 具体的には、新科学館から「いのちのたび博物館」へデジタルサイネージや AI 機能を搭載した表示灯など個性的な誘導表示の設置のほか、来訪者の導線に設置するサイン表示についても、移動しながら楽しめるような仕組みを取り入れます。
実施主体	北九州市、東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	期間終了後も継続予定（必要に応じて表示の充実・見直し）（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	地区内の誘導案内表示の検討・実施
必要資金 調達方法	1 2 百万円（内訳：1 百万円（市費）、4 百万円（負担金） 7 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
(事業番号 2-④)	
事業名	東田地区インフォメーションセンター構築事業
事業内容	インバウンドに対応できるインフォメーションセンター機能の構築を検討します。 東田地区において地区内を回遊するための最新技術を活用したモビリティ用品の貸し出し機能を持ったサービスセンターの構築を検討します。

	 
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会、北九州市
実施時期	2021 年～2024 年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	インフォメーションセンターのあり方の検討・構築
必要資金 調達方法	5 百万円 （内訳：2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラ スター推進事業補助金（文化庁））

（事業番号 2－⑤）

事業名	ICT を活用した利便性向上策の導入事業（キャッシュレス等）
事業内容	施設の利用料金のキャッシュレス化、利用者データの収集・活用及びスマートフォンによる特典（ポイント）付与など、来訪者の利便性向上に向けて ICT を活用します。
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	各施設（中核施設ほか）のキャッシュレス環境の整備
必要資金 調達方法	6 百万円 （内訳：2 百万円（負担金） 4 百万円（博物館等を中核とした文化クラ スター推進事業補助金（文化庁））

（事業番号 2－⑥）

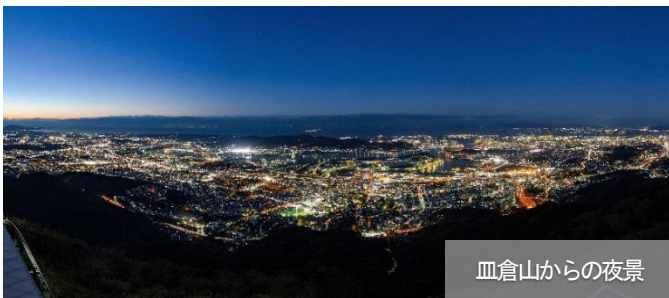
事業名	展示情報等の多言語化事業
事業内容	今後のインバウンドのターゲットに対応するため、展示解説や広報物、地区内案内などの情報の多言語化を進めます。当面、英・中（簡体・繁体）・韓の 3 カ国語に取り組みます。 （原則として、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に従います。）
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	施設の多言語化、リーフレットを活用した情報発信の実施
必要資金 調達方法	17 百万円 （内訳：7 百万円（負担金） 10 百万円（博物館等を中核とした文化 クラスター推進事業補助金（文化庁））

(事業番号 2-⑦)

事業名	国内向けボランティアガイドスタッフの育成事業
事業内容	市民等によるボランティアガイドスタッフの育成を図り、積極的に活用することによって、より地域に密着した解説を行うことで、来訪者が深い知識を獲得できるよう目指します。 また、エデュケーター（（事業番号 1-⑧）参照）が考案し実践する体験型プログラムの補助を担い、参加者にここでしか得られない特別な時間を提供します。
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	ボランティアガイドスタッフへの研修実施
必要資金 調達方法	事業 3-③に合わせて計上

8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業

(事業番号 3-①)

事業名	「ミュージアムパーク+1（プラスワン）」事業
事業内容	2022 年に開業予定のイオンモール(株)による新施設も含め、商業施設とミュージアムが連携し、共同企画の実施や施設の共通パス・割引特典など、回遊性を向上させるための取組を実施します。また、皿倉ケーブルカーなど近隣の観光施設とも連携し、シャトルバスの運行等による回遊促進や、相互集客の仕掛けづくりを行います。 さらに、新日本三大夜景都市に選ばれた「皿倉山」、世界的に著名な「河内藤園」など、周辺の観光スポットを周遊する観光コースを作成し、海外の旅行社へのセールス活動や、OTA や SNS など ICT を活用した FIT 誘致を強化します。
	 
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会、北九州市
実施時期	2021 年～2024 年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット 目標	回遊性向上施策の実施、シャトルバスの運行、観光コースの作成・PR
必要資金 調達方法	8 百万円（内訳：3 百万円（負担金） 5 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

(事業番号3-②)

事業名	インバウンド向けガイド付き周遊ツアー事業（「学ぶ」×「楽しむ」）
事業内容	文化施設等を周遊するインバウンド向けのガイドツアーを実施します。ネイティブ目線での丁寧な解説により、日本の文化や歴史について、背景にあるストーリーや価値を含めたより深い理解を促します。 また、「角打ち」や地魚を使った「北九州前寿司」など、北九州ならではのローカル食文化も取り入れ、それぞれの国の特性や嗜好に応じ、「学ぶ」と「楽しむ」を両方体験できるツアーの開発を目指します。
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020年～2024年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（民間事業者にて自走）
アウトプット目標	ガイドツアーの実施
必要資金 調達方法	17百万円（内訳：6百万円（負担金） 11百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

(事業番号3-③)

事業名	国内向けガイドツアー事業
事業内容	エリアへの集客を図るため、各ミュージアムを周遊する国内向けガイドツアーを実施します。地区外の魅力あるコンテンツ（食や観光資源）との連携など、ターゲットにあわせたツアーを企画し、新たな魅力や楽しみ方を提供します。
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020年～2024年
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（民間事業者にて自走）
アウトプット目標	モニターツアーの実施（2020年～2021年）※模擬ツアーを含む ガイドツアーの実施（2022年～2024年）
必要資金 調達方法	8百万円（内訳：3百万円（負担金） 5百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

(事業番号3-④)

事業名	宿泊施設や交通事業者と連携した集客促進事業
事業内容	小倉や門司港など、外国人観光客が多く訪れる地区の宿泊施設や交通事業者と連携し、市内の他地区を訪れる観光客をターゲットに、東田地区の文化資源をコンテンツとした観光誘致に取り組みます。 具体的には、文化施設の周遊と宿泊をセットにしたパック商品の開発や、宿泊施設における文化観光の情報発信などに取り組みます。
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2022年～2024年
継続見込	期間終了後も継続予定（市の予算、事業者予算）
アウトプット目標	宿泊施設、交通事業者との連携サービスの開発、広報連携

必要資金 調達方法	3 百万円 （内訳： 1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化ク スター推進事業補助金（文化庁））
--------------	---

8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業

（事業番号 4-①）

事業名	ミュージアムパーク情報発信事業（効果的な広報・PRの実施）
事業内容	ホームページによる情報発信のほか、来訪者がSNSを活用し、地域の情報を広く 発信したくなるような仕掛け・仕組みづくりにも取り組んでいきます。 2022 年の新科学館の開館を契機に、ホームページ上の情報について、ネイティブラ イターによる書下ろしの解説文を整備します。
実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	期間終了後も継続予定（市の予算）
アウトプット 目標	ホームページ、SNSによる情報発信
必要資金 調達方法	8 百万円 （内訳： 4 百万円（負担金） 4 百万円（博物館等を中核とした文化ク スター推進事業補助金（文化庁））

8-1-5. 1. ～4. の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号 5-①）

事業名	「いのちのたび博物館」の展示空間の拡充事業（新時代の博物館への進化）
事業内容	ミュージアムパークの集客力を上げるには、何よりも文化資源（施設）の魅力が必 要です。中核施設であるいのちのたび博物館では 2012 年以降、常設展の大規模なリニ ューアルが行われていません。 そこで、既往展示の磨き上げのみならず、新たな展示空間構築のための調査や実施 計画の策定、そして大規模リニューアルの実施を計画的に進めていきます。 魅力溢れる資料の新規展示や、最新の技術やアイデアを駆使した魅せ方の導入など、 国内外の新たな博物館ファンの獲得を目指し、「心ときめき記憶に残る体験」が提供で きる新時代の博物館へ進化を加速させます。 具体的には、現在の北九州市にしながら、中生代に生息していたスピノサウルス等 の陸海空の最大級の生物やダイオウグソクムシ等の深海生物のような過去や海外の珍 しく興味深い生物に出会え、それら生物の形・形に秘められた生きるための工夫など を当館でしか体感できない視点や視座で鑑賞できる常設展示に改修します。 歴史展示では、古来日本列島における交通の要所として重要な役割を果たしてきた 北九州地域の歴史について、日本史における重要な出来事や人物との関連を重視して 紹介します。また、「石炭と鉄がつくった産業都市」として独自の発展を遂げた北九州 市の足跡を明示します。さらに祭りや住まい、武士や城などインバウンド来館者の関

心の高い主題を中心に、日本文化の特質についてわかりやすく解説します。

そのため、源平合戦や戦国～江戸時代初期、幕末などを中心に、地域のダイナミックな歴史のドラマ性を、弥生時代や近代の農家、昭和戦後の製鐵所社宅などの生活再現展示を中心に体験性・体感性を高める工夫を施します。



【新時代の博物館として（先端技術の活用）】

上記の展示拡充に向けた取組や、ユニークベニューとしての期間限定館外展示などの企画において、VR や AR などの最新技術やデジタルアート手法などを積極的に活用します。

たとえば、迫力ある恐竜ロボットを駆使して白亜紀の北九州を体感できるエンバイラマ館（p. 19 参照）を、AR を活用することにより、現在は映像でしか表現し得ていない恐竜や翼竜のリアルな姿や動きを、来館者が持参する携帯端末で楽しんでもらうように進化させます。

また中世山城の一つである長野城合戦や近世の小倉城・城下町のジオラマなどについて、AR を活用することにより、合戦の具体的な場面や山城の機能、小倉城の構造や城下町の生活などについて、登場人物の一人として参加するようなかたちで、楽しみながら、より動態的かつ体感的に学んでもらえるように展示を更新します。

このように、先端技術を活用し、雄大な生命の「歴史」を楽習する、日本でここだけの体験ができる博物館を目指します。

実施主体	東田ミュージアムパーク実行委員会
実施時期	2020 年～2024 年
継続見込	2024 年に完了予定（期間終了後も随時展示をブラッシュアップ）
アウトプット目標	中核施設の展示リニューアル（計画策定～実施）
必要資金 調達方法	85 百万円（内訳：29 百万円（負担金） 56 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

8-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和2年度	1, 141百万円	事業番号1-①	14.5百万円	4.9百万円（負担金） 9.6百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-②	1,107百万円	1,107百万円（内訳：751百万円（市費）356百万円（地方創生拠点整備交付金（内閣府）））
		事業番号1-③	5百万円	2百万円（負担金） 3百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-⑥	1百万円	0.4百万円（負担金） 0.6百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2-③	1百万円	1百万円（負担金）
		事業番号2-⑥	2百万円	2百万円（負担金）
		事業番号3-②	1.5百万円	0.5百万円（負担金） 1百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4-①	0.2百万円	0.2百万円（負担金）
		事務局経費	9百万円	7百万円（負担金） 2百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
令和3年度	1, 777百万円	事業番号1-①	24百万円	8百万円（負担金） 16百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-②	1,695百万円	1,695百万円（内訳：1,223百万円（市費）472百万円（地方創生拠点整備交付金（内閣府）））
		事業番号1-③	14百万円	5百万円（負担金） 9百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

		事業番号１－⑤	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑥	2 百万円	1 百万円（負担金） 1 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑦	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－①	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－②	7 百万円	3 百万円（負担金） 4 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－③	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑤	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑥	4 百万円	1.4 百万円（負担金） 2.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－①	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－②	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－③	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－①	0.5 百万円	0.5 百万円（負担金）
令和４年度	80 百万円	事務局経費	10 百万円	4 百万円（負担金） 6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－①	1 百万円	0.4 百万円（負担金） 0.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

		事業番号 1－③	10 百万円	4 百万円（負担金） 6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－⑤	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－⑥	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－⑦	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－①	4 百万円	1.4 百万円（負担金） 2.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－③	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－④	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－⑤	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－⑥	5 百万円	1.7 百万円（負担金） 3.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－①	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－②	3.5 百万円	1.2 百万円（負担金） 2.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－③	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－④	1 百万円	0.4 百万円（負担金） 0.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 4－①	2.5 百万円	1.2 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

		事業番号５－①	15 百万円	5 百万円（負担金） 10 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事務局経費	14 百万円	5 百万円（負担金） 9 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
令和５年度	7 8 百万円	事業番号１－①	6 百万円	2 百万円（負担金） 4 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－③	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－④	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑤	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑥	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑦	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－①	4 百万円	1.4 百万円（負担金） 2.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－③	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑤	1 百万円	0.4 百万円（負担金） 0.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑥	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－①	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－②	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

		事業番号3-③	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3-④	1 百万円	0.4 百万円（負担金） 0.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4-①	2.5 百万円	1.2 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5-①	20 百万円	7 百万円（負担金） 13 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事務局経費	10 百万円	4 百万円（負担金） 6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
令和6年度	1 2 3 百万円	事業番号1-①	30 百万円	10 百万円（負担金） 20 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-③	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-④	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-⑥	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2-①	4 百万円	1.4 百万円（負担金） 2.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2-⑤	1 百万円	0.4 百万円（負担金） 0.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2-⑥	3 百万円	1 百万円（負担金） 2 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3-①	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3-②	5 百万円	2 百万円（負担金） 3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））

		事業番号３－③	2 百万円	0.7 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－④	1 百万円	0.4 百万円（負担金） 0.6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－①	2.5 百万円	1.2 百万円（負担金） 1.3 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事業番号５－①	50 百万円	17 百万円（負担金） 33 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
		事務局経費	10 百万円	4 百万円（負担金） 6 百万円（博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金（文化庁））
合計	3, 199 百万円			

※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、事業の規模・内容の見直しや自己資金による対応等について検討する。

9. 計画期間

2020 年度から 2024 年度までの 5 年間とします。